

# 適期田植えと過剰生育の抑制

## ■適期田植えと疎植による品質向上対策

田植えは必要とする株数を確保し、初期生育を安定させ、分けつを確保しやすい条件を作ることが大切です。降霜の危険性が高いうちの田植えは控えましょう。近年は生育期間中の気温が高く、生育が早まる傾向にあります。出穂期が高温時期と重なることによる白未熟粒等の品質低下を防止するため適期田植えを遵守しましょう。

品 種	ハナエチゼン	日本晴		コシヒカリ・あきさかり	
地 域	全 域	山間地	平坦地	山間地	平坦地
田植日	5月1日	5月1日	5月8日	5月14日	5月21日

・細植えにする理由は、太いしっかりとした茎をつくるためです。太いしっかりとした茎ができると、穂も大きくなり(大粒化)、倒伏にも強くなります。植付け本数の多い稲は、株が立派に見えますが、1本の茎が細く穂が小さくなりやすくなる上に、目に見えて倒伏しやすくなります。

・植付深さは根の発生位置が土中深さ3cm 程度となっているかを目安としましょう。右記のようにそれぞれのメリット・デメリットがありますので、目標値から大きく外れている場合は田植え機を調整しましょう。

## ■基肥量

ハナエチゼン	コシヒカリ	特裁コシヒカリ認証③ 省農薬あきさかり	特裁コシヒカリ認証④	日本晴
ハナエチゼン 044	エココシヒカリ 886	HG有機 666	特裁コシー発 297	日本晴 588
35 kg/10a	40 kg/10a	60 kg/10a	60 kg/10a	40 kg/10a

・基肥の量が過剰になると病害虫の発生や倒伏の危険性が増加し、不足すると葉色が淡く、生育量が小さくなります。地力を考慮した上で、上記標準基肥量を参考に施肥しましょう。



・肥料によって比重も若干違いますので、施肥開度表(今月号のかがやき 5 ページ掲載)をご確認の上、作業を開始しましょう。

# 効果的な除草剤散布と田植え後の水管理

## ■なぜ除草効果が劣るの？

### ① 漏水

【対 策】 耕起や代かきは丁寧に行い、漏水する場合は、**畦塗り**や漏水箇所を**畦シート**等で**補強**するなどの対策をしましょう。

### ② 圃場が均平でない

【対 策】 レーザーレベラーをかけたり、代かき作業を丁寧に行い、**田面を均一**にする

### ③ 除草剤の特性と異なった使用方法

(1) 除草剤散布までに草が大きくなった。

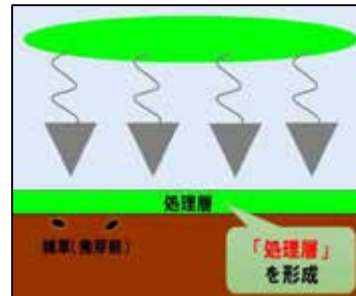
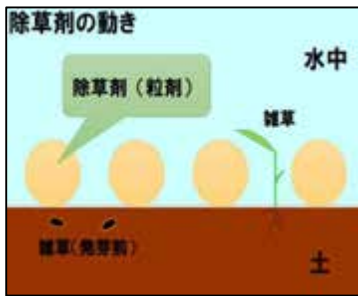
【対 策】 代かきから田植までの**期間を空けすぎない**。(7日程度まで)

(2) 除草剤の処理層が壊れている。

【対 策】 7日間は**落水**や**かけ流し**をしない。

(3) SU抵抗性雑草が多発している

【対 策】 **抵抗性雑草に対応した成分**の入っている除草剤を散布する。



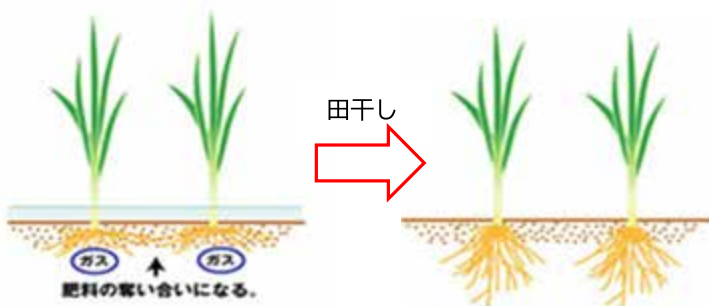
## ■田植え後の水管理

田植え直後、苗が活着するまでは、苗の葉先が少し見えるくらいの深水(3~4cm)を維持して苗を保護しましょう。新しい葉が生えたら、活着し始めているため、2~3cm程度の浅水管理にて水温や地温の上昇を図り、分けつを促進させ茎数の確保に努めましょう。



## ■軽い田干しで根に酸素を供給

基肥をしっかりと入れても葉色が薄い場合や葉の先が黄色くなっている場合は、土の中にガスが溜まることにより根の伸長が阻害されていることが考えられます。葉色が薄い場合でもむやみに追肥せず、軽い田干し(1~2日間落水)を行いましょう。ガスが抜けると根に酸素が供給され、根が地中深く伸びようになります。



活着後の深水管理は、水温の上昇を遅くするため分けつが遅れ、軟弱徒長を招くため注意しましょう。